

✿ 京都版ミニ・ミュンヘンの概要について

(1) ミニ・ミュンヘンとは

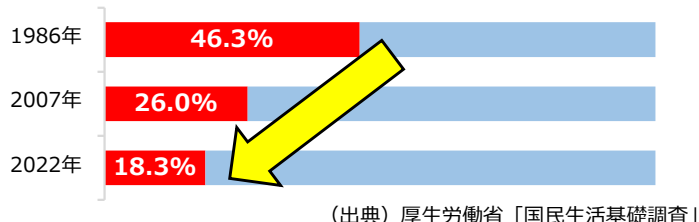
- ・ドイツのミュンヘン市で40年以上続く、子どもだけで運営する小さな仮想のまちづくりの取組。
- ・夏休みの3週間、7歳～15歳までの子どもが参加。
- ・仕事と学習を経て市民権を得た後は、自由に好きな仕事をし「ミニミュ」という独自通貨を稼ぐ。
- ・花屋、新聞記者、教員、デザイナー、コック、市長などたくさんの仕事があり、子どもは「遊び」「働き」ながら、まちを運営し、社会のつながりを学ぶ。

(2) 「京都版ミニ・ミュンヘン」がめざすもの

●現状分析●

18歳以下の子どもがいる世帯の割合は、
1986年：約5割⇒**2022年：約2割まで減少。**

【18歳以下の子どもがいる世帯の割合の推移（全国）】



「子どもがいることが当たり前」の社会ではなくなったことで、「子どもに対して寛容でない風土」が形成されている可能性。

「子どもを持つ前」と「子どもを持った後」で「子育てに対するイメージ」に**大きなギャップが発生。**

【中高生の子育てへのイメージ】

- ① 大変そう：78%
- ② 難しそう：62%
- ③ 疲れそう：57%
- ④ 楽しそう：56%
- ⑤ 人生が充実しそう：38%

(出典) 京都府調査

【子育てが「楽しい時の方が多い」と思う親の割合】

国	割合
日本	79%
フランス	86%
スウェーデン	91%

(出典) 内閣府「少子化社会に関する国際意識調査」

結婚や子育てに対する**ネガティブなイメージ**の広がりにより、**必要以上に後ろ向き**になってしまっている可能性。

●実施目的●

これから子育てをする次世代の若者と子どもとの交流機会を創出

- ・子どもの笑顔や頑張る子どもの様子（“ええ顔”）が大人や若者の目に触れたり、大人の世界に子どもが自然に入っていく取組を実施することで、**「地域の中に子どもがいることが当たり前」という意識をつくる**
- ・子どもの「まちづくり」への関心を高め、地域への更なる愛着心を育む

●京都版ミニ・ミュンヘンの流れ●

●5回程度のワークショップ（子ども×若者）

・ミニミュンヘンとは
・「まちづくり」について学ぼう

・通貨はどうする？
・まちをつくるにはどんなルールが必要？

・実際にまちに必要なもの、仕事に必要なものをつくろう

・市長、副市長を選挙で決めよう
・当日の受け入れ準備

●当日

- ①市民登録 まちに到着したら市民登録をする。
- ②仕事を探す 職業安定所で仕事を探そう！（例：市長、警察官、アイス屋さん、ハローワーク等）
- ③通貨を稼ぐ好きな仕事を見つけて働くと独自の通貨をもらえる。
- ④社会の仕組みを学ぶ 仕事を通じて、仕事とまちのつながりや、社会の仕組みを学ぶ。
- ⑤まちを運営する まちは子どもから選ばれた市長・議会により運営され、都市計画や店舗構成を決める。